

ふつつもとずほうるいほうだい 富津元洲堡壘砲台



桜の名所、真っ白な展望塔がそびえ立つ緑の島、中の島の由来とは...

富津公園一帯は、明治14年、時の明治政府により砲台と海堡が築かれました。中の島は元洲砲台として同年8月に竣工し、約3年の歳月をかけて築造されたものです。

築造の方法は、幅20～30メートルの外濠を掘り、海水を引き入れ砲台の整備とし、濠の砂を盛り、崩れを防ぐため外面を富津市二間塚の土で覆ったといわれ、現在もその痕跡を留めています。

明治28年には東京湾要塞指令部が発足し、守備隊がおかれました。元洲砲台には歩兵中隊446名が守備につきましたが、幸いに富津の砲台は一弾も発射されることなく、日露戦争には一部攻城砲として、旅順に送られたものもありました。大正4年9月に旧式として除籍され、陸軍技術本部の大砲試射場となり、後に24センチ列車砲も設けられ、その試射もありました。

軍の占拠は終戦まで続きましたが、昭和26年に県立公園に指定され、昭和28年に鉄筋コンクリート三層造最上階高さ11メートルの中の島展望塔ならびに中の島周辺に通称行幸橋が築造されました。

その後、老朽により中の島展望塔、行幸橋が撤去されましたが、昭和55年に鉄筋コンクリート三階建、高さ9.1メートルの展望塔が築造され現在にいたっております。

昭和29年頃 中の島から北側海岸方面



当時、園内には100人前後が住んでいた

昭和37年頃 中の島から南側海岸方面



濠には木橋、左端に汐見荘、その先に観光ホテル

